

## 「ゼロカーボンシティひらど」を目指して ~2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに!~

平戸市は、西海国立公園を形成する豊かな自然環境と大航海時代 の舞台となった恵まれた歴史・文化の中で、大地を耕し、大海原で 漁をしながら自然と共生する暮らしを大切に維持してきました。

近年、世界各地では猛暑や豪雨など地球規模での温暖化が原因とみられる異 常気象による災害が多発しており、もはや「気候危機」という状況にありま す。我が国においても例外ではなく、これまで経験したことのない豪雨や台風 等により各地で甚大な被害が発生しています。

こうした状況を踏まえ、被害から人々の生命と財産、社会インフラ、そして、 自然や生態系を守るため、2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前から の平均気温上昇の幅を2度未<mark>満とし、1.5度に抑え</mark>るよう努力する」との目標が 国際的に広く共有されました。2018年に公表されたIPCC (国連の気候変動 に関する政府間パネル)の特別報告書では、この目標の達成には「気温上昇を 2度よりリスクの低い 1.5 度に抑えるためには、2050 年までに CO2 (二酸化炭 素)の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

平戸市は、これまでも全国に先駆けてСО2排出量に対し削減・吸収量が均衡 する自治体を目指して、2014年(平成26年)9月に「CO2排出ゼロ都市」宣 言を行いました。2016年(平成28年)3月に「平戸市CO2排出ゼロ都市推進 基本計画」を策定し、2023年度(令和5年度)までに排出量と削減・吸収量の 収支ゼロを目標として、その達成に向けて様々な取り組みを実践し、着実に推 移している状況です。これに加え、この度さらなる大規模な風力及び太陽光発 電設備、木質バイオマス熱利用といった再生可能エネルギーによるCO2 削減が より具体的になって加速化されることから、目標年次までの達成は確定的とな りました。

平戸市は、国際社会の一員として、地球という美しい財産を後世に繋いでい くために、また、世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構 成資産「平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳・中江ノ島)」のあるふるさと平 戸を大切に引き継ぐために、市民や事業者の皆さんと協働で脱炭素社会の 実現を目指し、他の表明した自治体と歩調を合わせ、本市の二酸化炭素 排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティひらど」の実現へ向けて、 継続して挑戦することを改めて決意します。

2020年4月1日

